

# 心臓血管外科領域におけるタスクシフトの実践 ～医師・薬剤師協働の取り組み～



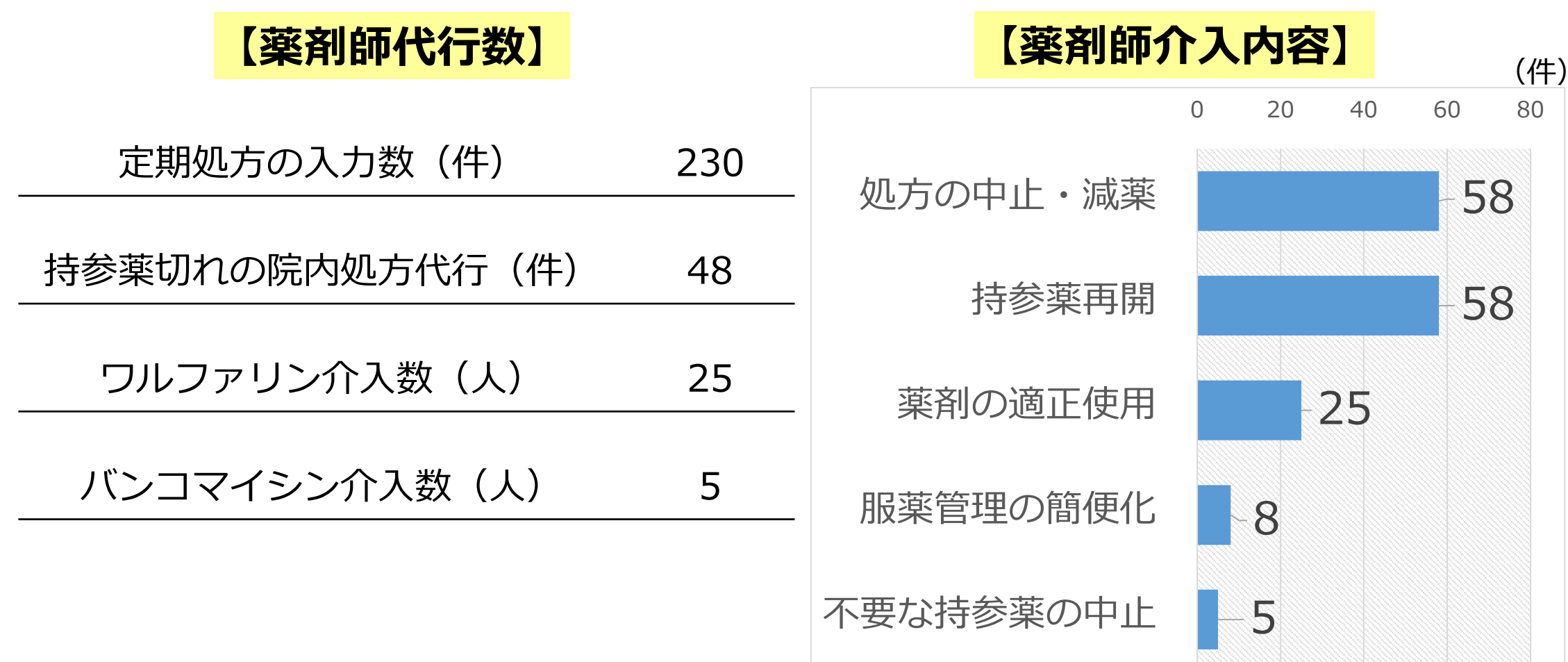
1小田 怜, 1楠本 真子, 1中村 有理,  
1瀬戸 崇光, 1松村 友和, 2佐藤 俊輔

1. 淀川キリスト教病院 薬剤部  
2. 淀川キリスト教病院 医務部 心臓血管外科

## 背景

## 結果 (期間: 2022/11~2024/6)

- 医師の働き方改革が推進されている中、厚生労働省は現行制度下で医師から他の医療関係職種へのタスクシフト/シェアが可能な業務の具体例や推進に当たっての留意点などを公開している。
- 病院薬剤師においては、**プロトコルに基づく薬物治療管理 (PBPM: Protocol Based Pharmacotherapy Management)** を実施することで、医師の業務時間の削減また薬物療法の質の向上や安全性に寄与することが期待されている。
- 当院心臓血管外科領域においても、**診療や手術などで繁忙な医師のみに処方管理や薬剤における意思決定などの業務が集中**しており、効率・安全性の面において課題を抱えていた。

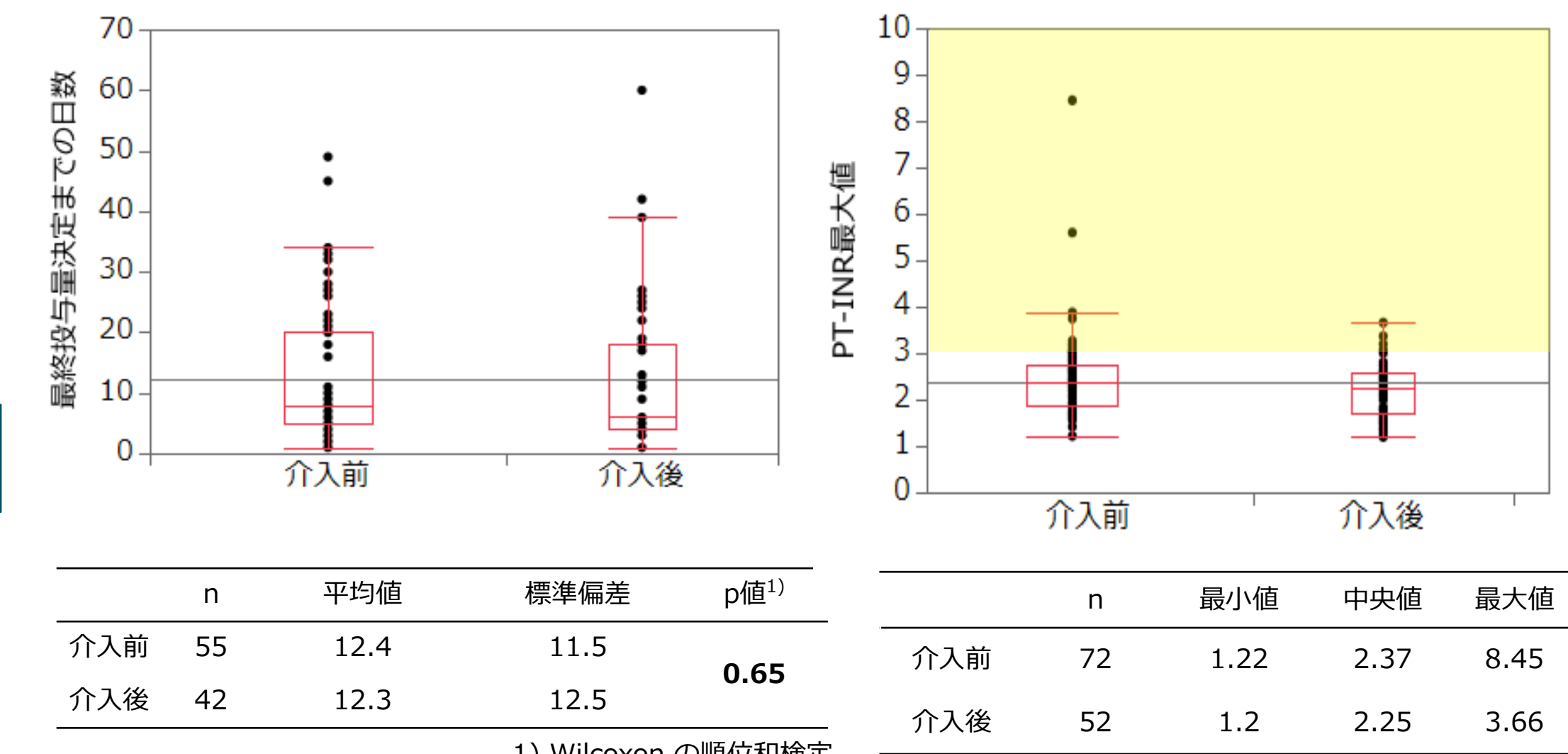


- 煩わしい処方管理や不要な薬剤の中止・術後の持参薬再開など、適正な薬剤管理に寄与した。
- 薬剤師による視点で、一包化管理にするなど処方形態にも拘った処方入力を行った。

## 目的

## 【ワルファリン】

医師-薬剤師間で予め薬物療法におけるプロトコルを作成し協働することで医師の業務負担軽減、薬剤師の専門性を発揮することを目的とした業務改善を実施した。その取り組みの成果について報告する。



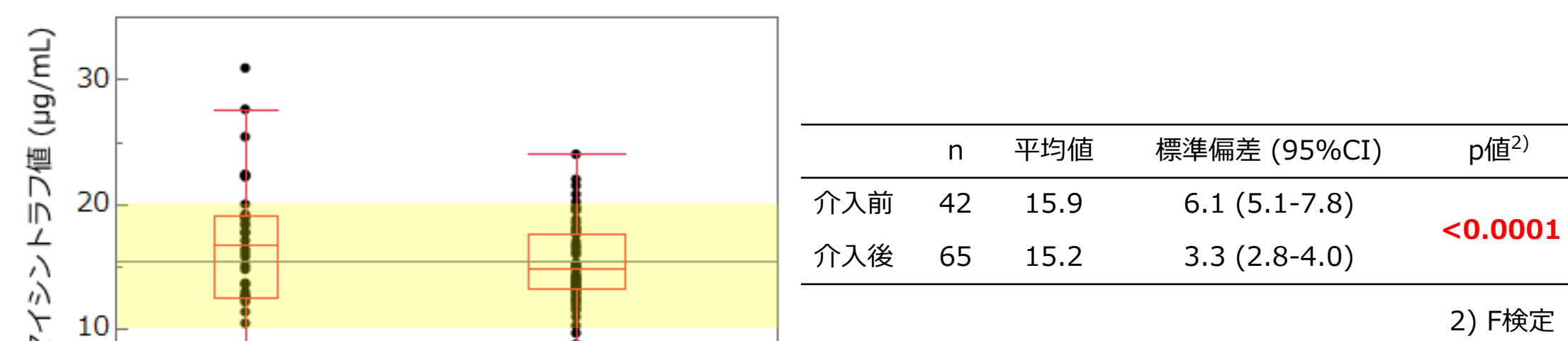
## 方法

- 最終投与量決定までの日数ではPBPM前後で有意な差はみられなかった。
- PT-INR値については、4.0以上など、危険域に入ることはなかった。

- 対象  
期間: 2022年11月~2024年6月  
対象患者: 心臓血管外科病棟に入院する患者  
除外: ICUを含む他病棟での入院

## 【バンコマイシン】

- 代行業務  
プロトコルに基づく薬物治療管理 (PBPM)  
✓①定期処方、予定手術患者に対する持参薬処方入力  
✓②採血結果で調整する薬剤の処方、検査オーダー入力  
医師-薬剤師が共通で使用するテンプレートの運用



※取り組みに際し、日本医療薬学会が推奨する「プロトコルに基づく薬物治療管理 (PBPM) 導入マニュアル」を参考とした。  
また当院の規定に則り、稟議書を提出し承認を得て取り組みを開始した。

- 至適トラフ値については、安全性・有効性の両面において良好な結果が得られた。

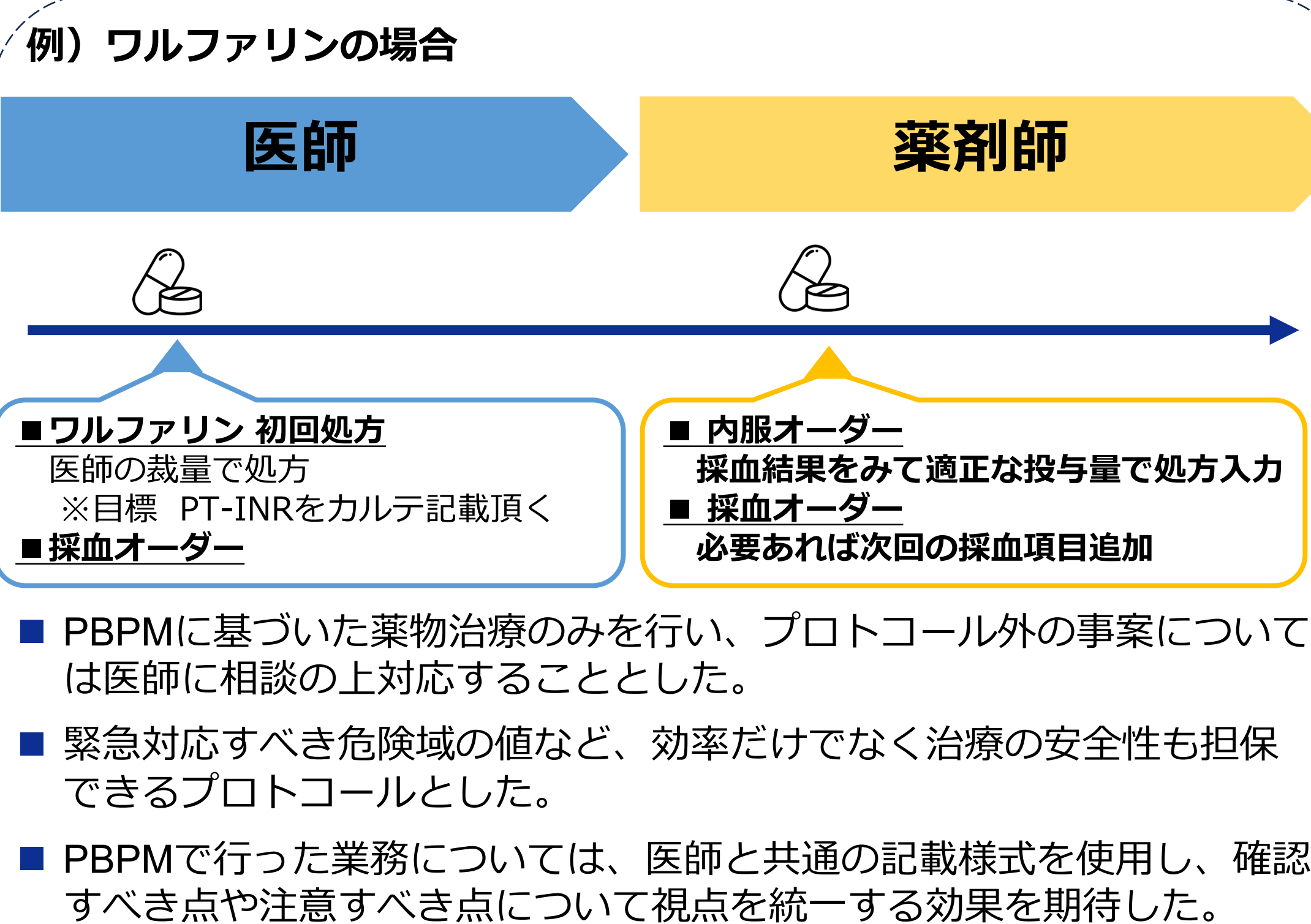
## 取り組みの具体的方法

## 【取り組みの結果まとめ】

- ✓ 医師-薬剤師カンファレンス (週1回)
  - ・心臓血管外科入院の患者について経過の共有
  - ・薬剤師側からも必要時、薬学的な介入、相談
- ✓ 定期処方の入力
  - ・カンファレンスの内容を元に1週間分の定期処方入力
- ✓ 持参薬切れの院内処方入力
  - ・持参薬が不足する場合、処方切れのないよう院内処方の入力
- ✓ 予定の手術で入院された患者の持参薬処方の入力
  - ・継続する持参薬を代行で手術前日まで継続処方
  - ・手術のパス処方と重複する場合は処方の修正
- ✓ ワルファリンやバンコマイシンなどの一部薬剤の管理
  - ・処方、オーダー入力
  - ・トラフ、ピーク値などの採血オーダー入力

- 内服処方の代行入力、カンファレンス  
定期カンファレンスの場で患者の情報共有が深化し、介入件数が増えた。処方の適正化およびシームレスな処方管理の支援を行うことができた。
- 採血に伴う薬剤調整オーダーについて  
✓ワルファリン: 薬剤師が代行を行っても遜色ない結果となった。  
✓バンコマイシン: 薬剤師が行うことで、より効果的/安全域での管理を行うことができた。

## 取り組みを受けて、医師からの評価



1. 薬剤に関する医師の負担軽減が得られた。
2. 医師がすぐに対応できない状況での処方の遅れや処方忘れといった事例が激減した。

## 期待していなかった副次的な効果

3. 抗菌薬をよりタイトにコントロールできるようになった。
4. 業務テンプレートを導入することで**チーム全体の診療クオリティが均一化し、教育効果も得られた。**
5. **術後の内服薬再開のタイミングが、より適切にできるようになった。**
6. 薬剤部との定期的なカンファレンスを行うことで、**各薬剤の特性など情報を聞ける機会が増えて、自分たちの成長につながっている。**

## 考察

- PBPMに基づいたタスクシフトは、**医師の業務負担軽減・効率化だけでなく、薬物療法の質の均一化や安全性の向上に寄与できた**と思われる。
- 定期的なカンファレンス通して、**チーム医療の連携強化や教育効果も**みられた。
- 適切で充足した薬物治療への介入を行い、取り組みを継続していくためには、**薬剤部の人員確保が必須である**ことも痛感した。

The author has no conflict of interest to disclose with respect to this presentation.

Presenting author: Rei Oda

日付	ワルファリン	PT-INR	PLT	Fib	食事摂取量	下痢	ワルファリンに影響を及ぼす薬剤など
11/10	0	1.09	82	557	中等	-	
11/11	2	1.11	108	566	十分	-	
11/13	1.5	1.84	173	606	十分	-	サラソスルファピリジン再開
11/14	1.5	1.33			十分	-	